

概要

医療人の育成の中で、多職種連携教育（Interprofessional Education (IPE)）で学生は、役割と責任、チームワークと連携、自らの職種の独自性、そして、実習施設の組織と機能を理解することが重要であることが明らかになり、世界的に共通の認識がなされているところである。特に、地域医療を担う人材育成教育において、IPEの重要性は大きく、その教育に対する高いニーズがあるものの、全国的にみてカリキュラムは発展途上のところがあると言える。今回、IPEの領域において教育者として発展的にリードする沖縄県の公立大学法人名桜大学の2人の教授（Eugene Boostrom 教授と小川寿美子教授）、及び、本学 IPE の立ち上げに貢献し、継続的に学生教育の一端を担っていただいている松前町立松前病院の木村眞司院長を招請し、国際セミナーと討論を行った。国際セミナーと銘打っていたこともあり、アメリカ人である Boostrom 教授は勿論のこと、他の2人の演者も英語での講演を願いし、また討論も英語を多く用いた。

Boostrom 教授と小川教授は、いずれも JICA に所属した経験を持ち、東南アジア、アフリカの発展途上国の医療水準向上のために、多職種連携（Interprofessional Work (IPW)）に重きを置き、課題の明確化、そしてその解決のために大きな貢献をした経験内容について講演いただき、また、これから求められる人材とそのための教育に関する種々の示唆をいただいた。

木村眞司院長は、実際に地域医療への貢献し、そして、本学への教育に参加していただいている立場から、北海道地域医療の課題を踏まえた人材育成について提言を含めたご講演をいただいた。木村院長のところには、他に比べると多くの学部学生、研修医、医師が集まり、指導力の高さが伺えた。

アジアやアフリカと同様に、広大な地域を抱える北海道は、医療を含めて様々な領域で共通する課題が見受けられる。本学の使命である地域医療を支える医療人の育成のための教育を発展させるためにも、国際的視野に立って考えていく必要を強く感じた。本学では、平成16年度に根釧地区で IPE(地域密着型チーム医療実習)を開始して7年を経過しようとしている。本国際セミナーは、これまでの教育内容を今一度見直し、発展的改善を考える機会となったばかりでなく、国際的な視野を持つことが重要であることをあらためて認識することができた。